

大都会の農業ルネッサンス [ニューヨーク]

都市の魅力を高め、新たな観光資源となった都市農業

古田尚也 IUCN日本リエゾンオフィスコーディネーター

ニューヨークで、新しい技術や発想によってユニークな都市農業が次々誕生している。こうした取り組みは都市の魅力を高めるだけでなく、観光資源ともなり、また、都市に住む子どもたちの教育にも貢献することから注目されている。

撮影 ● 古田尚也



クイーンズにあるブルックリン・グランジの屋上農園。土曜日には一般開放されている。



1 サタデーマーケットでは、収穫したての野菜やホットソースなどの加工品、蜂蜜のほか、Tシャツやエコバッグなどのグッズも販売されている。2 サタデーマーケットは新鮮な野菜を求める人々でいつもにぎわっている。



都会のオアシス 屋上農園

ぼかぼかとした日差しに誘われるように、たくさんの人が集まり、ベンチで楽しそうにおしゃべりをしたりランチを食べたりし、その傍らでは小さな子どもたちが遊んでいる。

大都会のニューヨーク、しかもビルの屋上であることを忘れてしまふようなのんびりとした農園風景が広がっている。しかし、よく見れば確かに遠くには摩天楼のビル群が立ち並んでいて、都会の真ん中にいることを思い出させる。

ここは、ニューヨークのクイーンズ地区にある屋上農園ブルックリン・グランジのフラッグシップファーム。築1000年を超えるビルの屋上に約1エーカー（約4000㎡）の広さの農園が設けられ、多様な作物が育てられている。

この農園は毎週土曜日に一般開放され、近所からたくさんの方が訪れて収穫したての農産物を買っていく。ブルックリン・グランジは現在、2010年にオープンしたこの農園に加え、ブルックリンのネイビーヤードにも2012年にオープンしたこの1.5倍の面積を持つ屋上農園を構えている。

ブルックリンのネイビーヤードにある、ブルックリン・グランジの2番目にできた屋上農園。



近々、さらに大きな3番目の農園もオープンする予定だ。

これらの屋上農園に共通することは、ただ野菜を生産するというだけでなく、都市の屋上農園という特徴あるロケーションを活用したイベントが年間を通じて数多く開催されていることにある。

たとえば、週1回開催されている有料のファームツアーには、全米はもちろん世界各地から見学者が訪れ、スタッフが約1時間をかけて農園を案内する。

そのほかにも、屋上農園でのヨガ教室、ディナーイベント、トマトや唐辛子といった季節の野菜の

収穫イベント、料理教室や試食会など、たくさん個性的なイベントが行われ、どれもすぐチケットがソールドアウトしてしまうほどの人気だ。

「ブルックリン・グランジには大きく分け3つの収入源があります。一つ目は野菜の販売です。ここで栽培している野菜の70%はレストランに直接卸し、残りはサタデーマーケットやCSA (Community Supported Agriculture) を通じて販売します。2つ目の収入源は、結婚式やディナーなどのイベント収入で、ここから大きな収益が得られています。3つ目の収入源は

デザイン&ビルド部門。同じような屋上農園を持ちたいという顧客に対してコンサルティングを行っています」と、ツアーで農園を案内してくれたステファニーさん。

ビル屋上のグリーンハウスで新鮮な野菜を生産

ブルックリン・グランジのほかにも、ニューヨークで営利目的に都市農業を始めたスタートアップ企業がある。2009年に設立されたゴッサム・グリーンだ。

ゴッサムとはニューヨークを指す別名であるが、現在、ニューヨークやシカゴの4カ所で、ビル屋上のスペースを活用したグリーンハウスで野菜を生産している。そのコンセプトは、都市の中で安



3 ブルックリン、ゴワナス地区のホールフーズ・マーケット屋上にあるゴッサム・グリーンの施設。4 見学者には試食やお土産も。

全・安心な野菜を効率的に栽培し、都市住民に提供すること。同時に、長距離輸送や食品ロスを減らして地球環境問題にも貢献しようというものだ。

光や気温、湿度、二酸化炭素濃度などがコントロールされたグリーンハウスの中では、サラダ用のレタスやベビリーフ、バジルなどが水耕栽培で作られている。害虫防除には、てんとう虫など益虫を使い農薬は使用せず、水耕栽培なので除草剤も必要ない。遺伝子組み換えの種も使用していない。水もリサイクルするので、使用量は慣行農法と比べて10分の1に節約できる。効率的にスペースを使えるので、面積あたりの収穫量は通常の20〜30倍に達する。

使用する電力は100%再生可能エネルギー。そして、生産された野菜はすぐ大消費地であるニューヨークやシカゴで販売されるから、輸送に伴う二酸化炭素の排出を大きく減らすことができる。

「現在ニューヨークで売られているレタスの95%はカリフォルニアから運ばれています。その輸送の過程で大量のCO₂が排出されています。私たちの会社では、そういう状況を変えて、地産地消を実現しようとしているのです」とゴッサム・グリーンの施設を案内してくれたマーケティング担当のメリンダさんは話す。

彼女が案内してくれたのは、2014年にブルックリンのゴワナス地区にオープンした同社で2番目のグリーンハウス。週1回、希望者に無料の見学ツアーが行われている。

このグリーンハウスの施設は、自然食品やオーガニック・フードを扱うアメリカで人気のスパーマーケット、ホールフーズ・マーケットの屋上に造られたものだ。広さは約2000㎡で、バジルを中心に栽培が行われている。屋上で作られた野菜は、収穫されるとすぐにこのスーパーマーケットの棚



5 ユニオンスクエアのグリーンマーケットで蜂蜜を販売するアンドリュースさん。6 ユニオンスクエア近くのビル屋上に置かれたミツバチの巣箱。アンドリュースさんは、希望する人たちにこうしたミツバチの巣箱を案内するなど、ツアーも行っている。



マンハッタンの地下室でハーブを生産

「ニューヨークという大都市で農業に挑戦する「Farm One（ファームワン）」は、2016年に創業したばかりのもうひとつのユニークなスタートアップ企業だ。

その特徴は、大都市地下の狭い空間を立体的に活用した植物工場で、LED照明を使った水耕栽培によって、高付加価値かつ、ほかでは手に入りにくい多品種の珍しいハーブ類を生産するというもの。同社が2016年4月に最初のプロトタイプ工場をロウアー・マンハッタンに造ると、たちまち評判となり、ニューヨークの数多くのレストランから引き合いを受けることに成功する。最初の工場

はすぐに手狭になり新たな場所を探していたところに、顧客であったミシユラン二つ星レストランの「Atea（アテア）」が地下室を提供してくれることとなった。

その地下室に最新設備を備えた新たな植物工場がオープンしたのは2017年8月。広さは、わずか50㎡程度と小さいが、この場所

で500種類以上の珍しく高付加価値がついたハーブ類や葉物野菜を生産している。

こうして生産された野菜は、隣で営業するAteaをはじめとして、ニューヨークで営業するミシユランの二つ星、三つ星の高級レストランに徒歩や自転車、地下鉄などで配達される。



バッテリーパークに造られた、アーバンファーム。特に子どもたちの教育用として使われている。



マンハッタンからフェリーですぐのガバナーズ島にも、最近、教育用の農園が整備された。



1 珍しいハーブ等が栽培されるFarm Oneの地下植物工場。見学ツアーも人気。2 ミズナなど世界中の野菜が水耕栽培される。

「ゴッサム・グリーン社はすでにフルタイムの従業員100人以上を雇用する企業に急成長している。また、こうした先進的な活動を学ぶために、同社の施設には、地元だけではなく世界中から見学者が訪れるなど、その取り組みはニューヨークの新たな観光資源ともなっている。

屋上養蜂も新たな観光資源に

マンハッタンの中心部に近いユニオンスクエアは、その規模や客数からニューヨークで最も有名なグリーンマーケットが開催される場所としても知られている。毎週、月水金土曜と4日開催されるこのマーケットには、ニューヨーク

のほか、Farm Oneでは見学者のためのツアーにも積極的に取り組んで人気となっている。このツアーは、一人あたり50米ドルと比較的高価であるが、スパークリングワインを飲みながら、約1時間かけてこの植物工場の説明を聞き、育てられている珍しいハーブを試食するというもの。ハーブセットのお土産までついでくる。こうしたほかにはないユニークな体験ができることから、トリップアドバイザーなどでも高い評価を得ているのだ。

農業が都市の魅力を高める新たな要素に

ニューヨークでは、このように近年スタートした屋上農園や植物

工場、養蜂などの都市農業が新たな産業として成長するとともに、都市の魅力を高め、新たな観光資源ともなっている。また、都市農業は、都市に住む子どもたちにとっての貴重な体験や学習の場ともなっている。

都市と農業という一見相容れない要素が、新しい技術や発想によって融合を始めている。都市に住む人口は世界人口全体の半数を超え、今後ともその割合は増加することが予想されている。こうした中、都市における農業のルネッサンスは、食料やエネルギー問題といった世界規模の課題への貢献も視野に入れた新たな領域であり、今後の成長が期待できる分野として大いに注目されよう。

Naoya Furuta

大正大学地域構想研究所教授。
東京大学大学院農学生命科学研究科
博士課程単位取得退学。三菱総合研究所を経て、
2009年よりIUCN（国際自然保護連合）の
日本オフィスにおいて生物多様性に関する
国内外の政策展開に従事する。